

長久手市地域協働計画策定ワークショップ

第5回のレポート

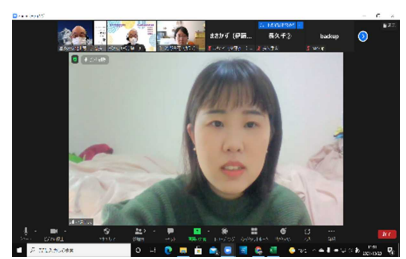
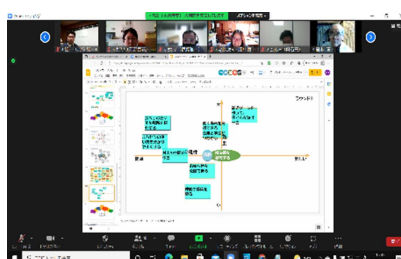
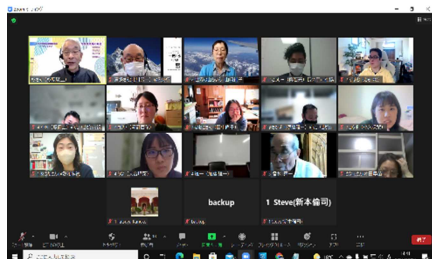
長久手市くらし文化部たつせがある課
令和3年11月発行

第一回(7/31)から始まったワークショップの第五回(10/23)の報告書です

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
日時： 7月31日(土) 13:00~16:00	日時： 8月28日(土) 13:00~16:00	日時： 9月11日(土) 13:00~16:00	日時： 9月25日(土) 13:00~16:00	日時： 10月23日(土) 13:00~16:00
テーマ： 夢を語ろう！ あなたのやりたいこと できること	テーマ： 長久手らしさ とは？	テーマ： 協働のカタチ	テーマ： 解決策を生み 出す	テーマ： 提案作成
目標： お互いに知り 合う	目標： 発想の転換を 図り、長久手 ユニークを創 る	目標： 協働のアイデ アを爆発させ る	目標： 実現性を検討 し、提案を策 定する	目標： 実行プラン作 成し、提案書 にまとめる

＜第5回の参加者＞

- ・19名(男10名・女9名)
- ・市民3名・市民団体3名・学生4名・大学1名・市関連2名・職員4名・スタッフ2名
- ・Zoom操作にも慣れました
- ・画面を共有しての話し合い
- ・プレイアウトルームファシリテーターのKさん



◆スタッフのコメント

- ・第二回以降の目標は、「発想の転換を図り、長久手ユニークを創る」「協働のアイデアを爆発させる」「実現性を検討し、提案を策定する」と実施してきて、今回の目標は「長久手らしい協働の具体策を決める」計画の拠点である「まちづくりセンターをアルパカ牧場のような場(BA)にする」ために(人・物・情報)に分かれ、既成観念に捉われない**想像的対話**を行いました。
- ・今回のテーマが難しく、最初は戸惑っていたが話し合いが進むにつれて盛り上がったようです。
- ・回数を重ねたことで、テーマの理解が進み対話が深まったとの声がありました。
- ・リアルだとアドバイスがしやすく、各グループに任せであったが、参加者の積極的な協力とBRFの努力により当初予想もしなかった、創造的なアイデアが多数発掘できました。

◆プレイアウトルームファシリテーター(BRF)の感想より

- ・今回は、みんなで相談して決めるという協力する面が強く、参加者同士のまとまりを感じた。
- ・上下関係を気にせずに、長久手市民の一員という捉え方で、お互いを尊重し合うことができたのが良かった。
- ・回数を重ねることで自信をもってBRFを務め、参加者が楽しそうに話し合いをしている姿をみて、とてもやりがいを感じた。

第5回のプログラム＜何を対話したのか＞

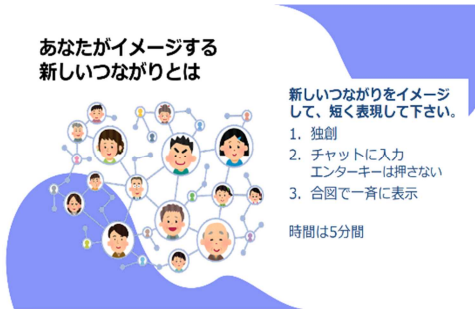
テーマ：提案を作ろう
長久手らしい協働の具体策を決める
アルパカ牧場のコンセプトを移転して、長久手らしい
協働の場（BA）を始める具体策を決める



＜プログラムと感想＞

Part 01 オープニング 新しいつながりのイメージを固める

*チャットを転載した



「笑顔で自己紹介・気軽に声をかける」
「会う人とニコリ」「自由さが認められるつながり」
「見守るつながり」「きっかけがあること」
「オンラインゲームなどで趣味を通じてつながる」
「思ってもいなかった人とつながる」「時空を超えたつながり」
「誰でもふらっと集えるようなつながり」「出会い頭」
「温かい見守りのつながり」「リアルなSNS」
「オンラインとオフラインで、自分らしくつながる」
「感染症をブロックするような笑顔の眩しい」

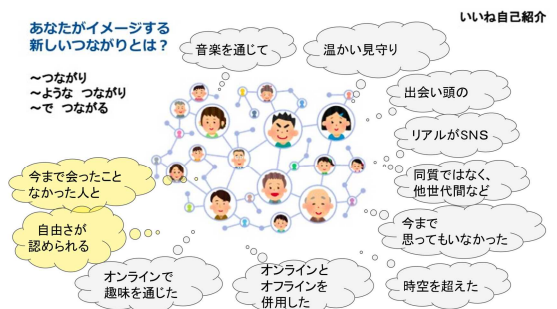
「クーテシガーナで今日は」「嫌いなのに好き」「ズーム飲み会」
「今の自分が想像していない未来へ導いてくれるつながり」

・人それぞれの思い描く
「新しいつながり」

Part 02 アイスブレイク 新しいつながりのイメージを共有する

いいね自己紹介&イメージ共有

*コメントはアンケートから抜粋した



・自己紹介を兼ねつつ、他の参加者の
つながりに対する思いを聞くことが
できた

・それぞれ出たイメージに対して、自分
のイメージを膨らませたり、いいと思
った点を交流できた

・話しやすくなりました

Part 03 対話会 ラウンド1～3

対話会
浅いが快適なつながりで
協働するアイデアを
爆発させる

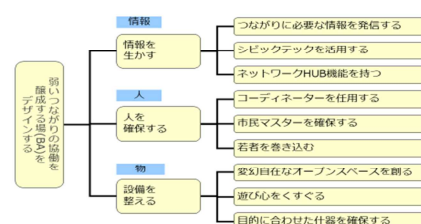
ラウンド1：20分間
アルパカ牧場のようなまちセンとは
ラウンド2：30分間
具体的なアイデアを爆発させる
ラウンド3：25分間
実行可能な施策のアイデアを決める



アルパカのコンセプト



地域協働計画実施項目ロジックツリー案



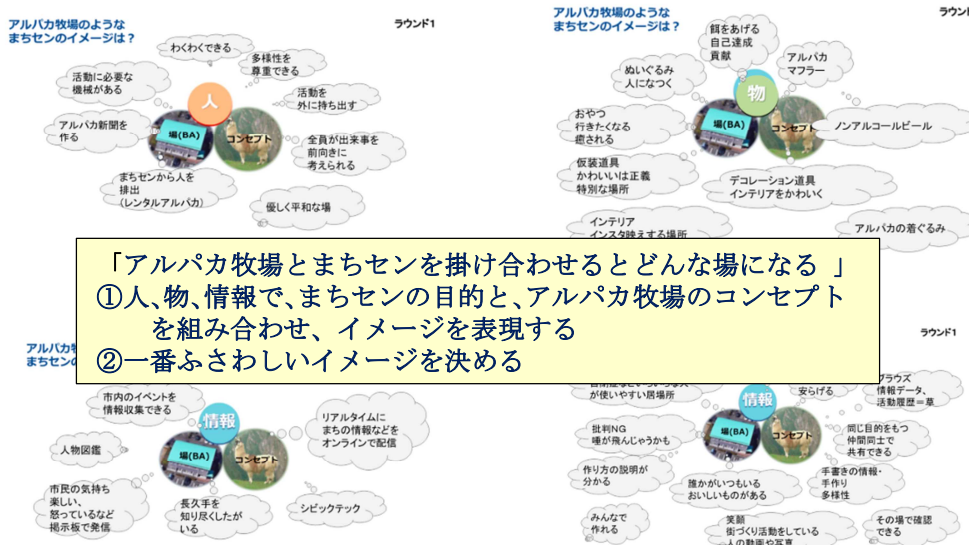
Part 04 エンディング

◇発表・・・各チームが選んだ解決策を共有した

◇収穫・・・今日の気づきを各自メモした

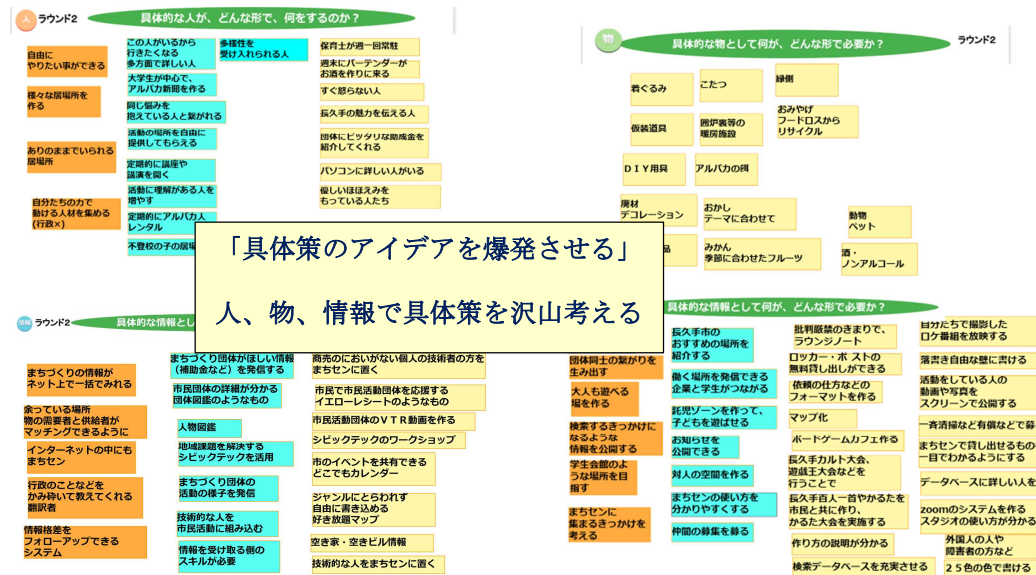
<対話から生まれた成果物>

ラウンド1 「アルパカ牧場のよう な まちセンのイメージは？」



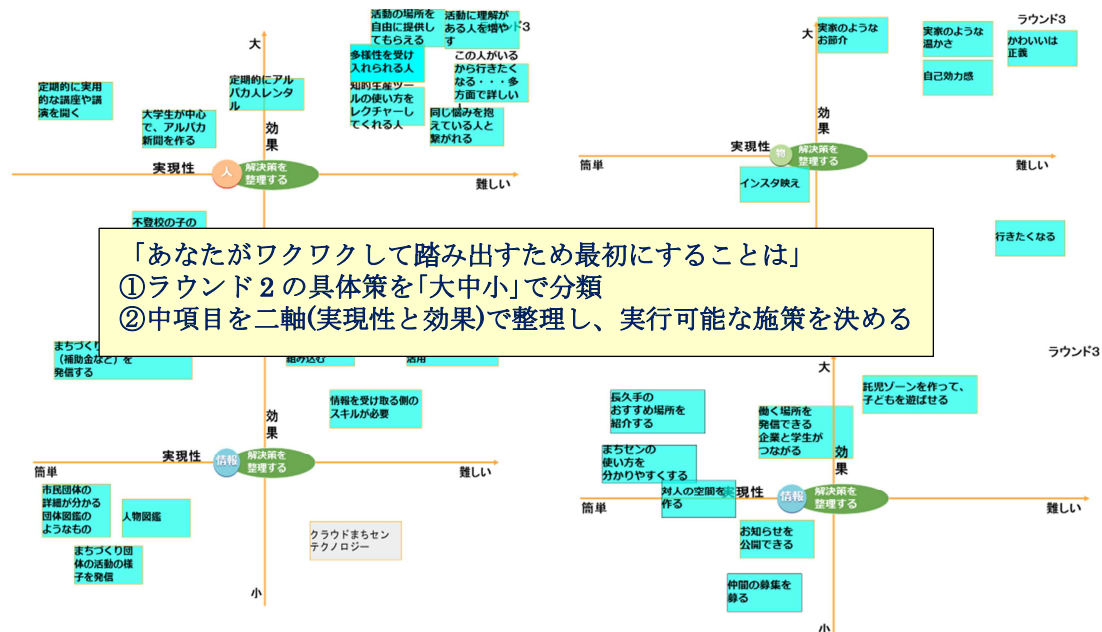
「アルパカ牧場とまちセンを掛け合わせるとどんな場になる」
 ①人、物、情報で、まちセンの目的と、アルパカ牧場のコンセプトを組み合わせ、イメージを表現する
 ②一番ふさわしいイメージを決める

ラウンド2 「まちセンの場としてのイメージを 実現する具体策は？」



「具体策のアイデアを爆発させる」
 人、物、情報で具体策を沢山考える

ラウンド3 「あなたが踏み出す 最初の一步は？」





- ・アルパカをテーマにしたことで、今までとは違った視点からつながりについて考えることができた。
- ・具体と抽象の行ったり来たりの対話が良かった。

*アンケートに加筆した

第2次長久手市地域協働計画

- ・多様な人々の参加でオンラインワークションを実施しました

参加者数 34 名(男女各 17 名)延べ 102 名

内訳(・市民 6名・市民団体 6名・学生 7名・大学 4名・市関連 2名・職員 6名・ｽﾀｯﾌ 3名)

主催者からの御礼

- ・昨年度に計画づくりのワークショップを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、中止しました。開催方法について、まちセンコーディネーターの皆様と協議し、今年度オンラインでのワークショップの開催とさせて頂きました。

目的に「自分事の延長線に協働計画を策定して、実践する。そのために、楽しく、学び・対話するワークショップを開催する。」これを実現するには、しっかりした対話が有効であり、そのため多くの時間設定が必要があり不安な状態でスタートでしたが、回を重ねるごとに従来の概念に捉われない対話会となり「長久手らしいアイディア」が多数発掘できました。これは、市民・市民団体に加え学生・大学と多様な方々に参加していただけたからと、この場を借りて、御礼申し上げます。

また、対話会が楽しく盛り上がった一因は、学生さんがブレイクアウトルームファシリテーターを担ったことと認識しております。計画策定時点からこのような協働が実践できたことも大きな収穫です。

今後は、下記スケジュールにて計画完成と実践となりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

今後の予定

- ・11月20日(土)10:30~12:00 ワークショップ参加者によるリアル交流会

場所：長久手市まちづくりセンター 集会室①

長久手市武蔵塚 101-3 0561-64-6400

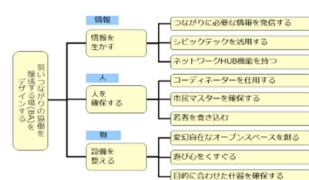
テーマ(案)：「つながりを一歩進めるために、もっと知り合おう会」

おまけ : 有志によるリニモテラス昼食懇親会 (12:15~?)

以下は、たつせがある課のスケジュール

- ・11月- 地域協働計画(素案)のとりまとめ
- ・12月-1月 パブリックコメント募集
- ・2月- 地域協働計画(案)のとりまとめ
- ・3月- 地域協働計画策定・公表

地域協働計画実施項目ロジックツリー案



・4 月- 地域協働計画 2020 の実践

ワークショップのアイデアを反映します